

- 問1 「下剋上」の風潮によって、室町時代の地方政治において生じた変化として正しいものはどれですか。 (2018年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 幕府が御成敗式目を制定し、裁判の公平性を高めることで農民の不満を解消した。 | 2. 北条氏が執権として幕府の実権を握り、独自の法律を定めて武士を統制した。 | 3. 守護代や国人が、実力で守護大名に代わって領国を支配する戦国大名が現れた。 | 4. 白河上皇が位を譲った後も政治を行うことで、摂関家から実権を取り戻した。 |
|--|--|---|--|
- 問2 室町時代、近畿地方などの先進地域を中心に、農民たちが自衛や村の運営のために結成した自治組織を何といいますか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|------|------|
| 1. 株仲間 | 2. 五人組 | 3. 惣 | 4. 座 |
|--------|--------|------|------|
- 問3 1467年に始まった応仁の乱は、京都を主な戦場として11年近く続きました。この乱の直接的な原因と、その後の社会の変化について述べた説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 南朝と北朝の二つの朝廷が対立したことが原因となり、足利義満がこれを統一することで、幕府による全国支配が完成した。 | 2. 室町幕府の8代将軍、足利義政の後継者争いや有力な守護大名の対立が原因となり、実力のある者が上の者を倒す「下剋上」の風潮が強まった。 | 3. 織田信長が足利義昭を追放したことが原因となり、室町幕府が滅亡し、近世に向けた城下町の整備が進められた。 | 4. 元の襲来（元寇）による恩賞の不満が武士の間で高まったことが原因となり、鎌倉幕府が滅亡して天皇による親政が始まった。 |
|---|--|--|--|
- 問4 室町時代の日明貿易（勘合貿易）の形式と、その背景にある国際関係の説明として最も適切なものはどれですか。 (2018年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|--|--|--|
| 1. 明からの輸入制限をかけるために、すべての貿易を長崎の出島に限定した | 2. 日本が明の皇帝に貢ぎ物を届け、その返礼品を受け取る朝貢貿易の形をとった | 3. 日本と明が対等な立場を強調するため、勘合符に代わり金銀を交換基準とした | 4. 倭寇を鎮圧するために、幕府が明の軍隊を日本国内に駐留させることを認めた |
|--------------------------------------|--|--|--|
- 問5 足利尊氏が征夷大將軍となり幕府を開いた14世紀ごろ、日本の周辺海域で活動が活発化した集団について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2019年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 天下の台所と呼ばれた大阪を拠点に、全国の物資を管理した。 | 2. 勘合貿易を独占し、幕府の許可を得て朱印船を派遣した。 | 3. 元軍が日本に侵攻した際、対馬や壱岐で抵抗した防人が組織された。 | 4. 朝鮮半島や中国沿岸で海賊活動や密貿易を行った倭寇が活動した。 |
|---------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
- 問6 14世紀末に明の皇帝から「日本国王」の称号を得て、それまで途絶えていた中国との正式な国交を回復させ、日明貿易（勘合貿易）を開始した室町幕府の第三代将軍は誰か、名称を答えなさい。 (2018年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 足利尊氏 | 2. 足利義満 | 3. 足利義昭 | 4. 足利義政 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問7 鎌倉時代から室町時代にかけて、和人とアイヌの人々との間で行われた交易や当時の社会状況について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2023年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 西日本を中心に、干害に強い大唐米の栽培や二毛作が広がり、用水路管理のための組織化も進んだ。 | 2. 交易の対価として日本からは大量の銀が輸出され、アイヌの人々を通じて中国の特産品が大量に輸入された。 | 3. アイヌの人々との交易を独占するため、幕府は全国に五人組を組織して農民の行動を厳しく制限した。 | 4. アイヌの人々との交易によって、鮭や昆布、毛皮などの北方の産品が和人を通じて京都などの都市へ運ばれた。 |
|--|--|---|---|
- 問8 14世紀末から16世紀半ばにかけての明（中国）側の記録によると、明へ朝貢を行った回数はシャム（73回）や朝鮮（30回）に比べて琉球王国が171回と極めて多いことが分かっています。この時期に琉球王国が行っていた貿易の実態について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2025年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 東南アジアから輸入した銅銭をそのまま明へ輸出し、明から高級な漆器を大量に買い付けていた。 | 2. 明への朝貢回数は他国より制限されていたため、主に日本との直接取引だけに限定して貿易を行っていた。 | 3. 明へ日本産の漆器や刀剣を輸出し、その見返りとして明から大量の香木や香料を直接仕入れていた。 | 4. 明から陶磁器や銅銭を得て、それを東南アジアの香料や香木とともに日本などの周辺諸国へ転売していた。 |
|---|---|--|---|
- 問9 室町幕府において、細川・斯波・畠山の三家が交代で「管領」という役職に就いた理由や、その役割について説明したものとして最も適切なものを選択してください。 (2024年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|--|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 天皇の補佐として朝廷の儀式を主導し、公家と武士の融和を図るため | 2. 有力な守護大名の勢力を幕府の中核に取り込み、将軍を補佐して幕政を安定させるため | 3. 地方で反乱を起こした守護大名を処断し、将軍の独裁権を強化するため | 4. 東国の統治を目的として鎌倉に設置された機関を指揮・監督するため |
|------------------------------------|--|-------------------------------------|------------------------------------|
- 問10 鎌倉時代において、後鳥羽上皇が幕府から政権を取り戻そうとして兵を挙げたものの敗北し、結果として幕府が朝廷の監視や西日本の統治を強化するために「六波羅探題」を設置する契機となった出来事を選びなさい。 (2017年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|----------|---------|
| 1. 建武の新政 | 2. 承久の乱 | 3. 平将門の乱 | 4. 平治の乱 |
|----------|---------|----------|---------|
- 問11 室町時代、日明貿易（勘合貿易）を利用して中国の明に渡り、現地の技法を学んで日本独自の水墨画を大成させた禅僧は誰か答えなさい。 (2021年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|---------|-------|---------|
| 1. 運慶 | 2. 狩野永徳 | 3. 雪舟 | 4. 葛飾北斎 |
|-------|---------|-------|---------|
- 問12 足利義満によって始められた日明貿易で、「勘合」と呼ばれる札が用いられた理由として、当時の時代背景をふまえた最も適切な説明はどれですか。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|---|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 東アジアの海域で活動していた倭寇と、正規の貿易船を区別するため | 2. 有力な守護大名が独自に行っていた私貿易を、幕府が完全に管理・独占するため | 3. キリシト教の布教を目的とする宣教師の密航を阻止するため | 4. 元寇による被害に対する賠償金の支払いを、明側に証明させるため |
|------------------------------------|---|--------------------------------|-----------------------------------|
- 問13 足利義満が明との貿易において、「勘合（勘合符）」と呼ばれる証明書を使用することになった主な目的は何ですか。 (2022年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|---|--------------------------------------|---|
| 1. 日本国内の有力な大名や寺社が、独自に明と交易を行うことを許可するため | 2. 幕府が認めた正式な貿易船と、当時海上で活動していた海賊（倭寇）を区別するため | 3. 明から輸入する銅銭や生糸の価格を、あらかじめ一定に固定しておくため | 4. 明の皇帝に対して、日本が対等な立場であることを証明する外交文書とするため |
|---------------------------------------|---|--------------------------------------|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 守護代や国人が、実力で守護大名に代わって領国を支配する戦国大名が現れた。	下剋上の風潮が強まると、それまで守護大名を補佐していた「守護代」や、地方の有力武士である「国人」たちが、自らの実力で主君を倒して領地を支配するようになりました。これによって誕生した勢力は戦国大名と呼ばれ、各地で独自の分国法を制定するなどして支配を強めました。
問2	答え 3 惣	室町時代になると農業技術の向上によって農民の地位が高まり、自分たちで村を運営する「惣（惣村）」が作られました。これに対し、「五人組」は江戸時代の幕領などで組織された連帯責任の制度であり、「座」や「株仲間」は商工業者の同業者組織を指します。
問3	答え 2 室町幕府の8代将軍、足利義政の後継者争いや有力な守護大名の対立が原因となり、実力のある者が上の者を倒す「下剋上」の風潮が強まった。	応仁の乱は、8代将軍足利義政の跡継ぎ問題をきっかけに、細川氏（東軍）と山名氏（西軍）という有力な守護大名が二派に分かれて争ったことで長期化しました。この乱の結果、将軍や幕府の権威は大きく衰退し、各地で実力のある者が主君を倒して実権を握る「下剋上」の動きが加速し、戦国時代へと移行しました。
問4	答え 2 日本が明の皇帝に貢ぎ物を届け、その返礼品を受け取る朝貢貿易の形をとった	当時の明は、中国の皇帝が周辺諸国の王に位を与え、それに対して諸国が貢ぎ物を贈る「朝貢（ちょうこう）」という外交形式をとっていました。足利義満は貿易による莫大な利益を得るため、明の皇帝から「日本国王」の称号を受け、朝貢の形式で貿易を行う道を選びました。この正式な朝貢船であることを証明するために用いられたのが勘合符であり、これによって倭寇などの密貿易船が排除されました。
問5	答え 4 朝鮮半島や中国沿岸で海賊活動や密貿易を行った倭寇が活動した。	14世紀（南北朝時代から室町時代初期）には、倭寇と呼ばれる集団が東アジアの海域で活動を強め、高麗や明を悩ませました。足利義満の代になると、これらを押さえ込む目的も兼ねて明との間で勘合貿易が始まります。防人は古代の制度、朱印船貿易は安土桃山から江戸初期、天下の台所は江戸時代の状況を指します。
問6	答え 2 足利義満	足利義満は南北朝の合一を成し遂げた後、強力な権力を背景に明との外交交渉を進めました。当時、東シナ海で活動していた海賊（倭寇）の取り締まりを求める明側の要求に応じる形で、1401年に正式な国交が樹立されました。
問7	答え 4 アイヌの人々との交易によって、鮭や昆布、毛皮などの北方の産品が和人を通じて京都などの都市へ運ばれた。	中世において、北海道を中心に独自の文化を築いていたアイヌの人々は、和人と盛んに交易を行いました。アイヌ側からは鮭、昆布、アザラシなどの毛皮といった北方の豊かな特産品が提供され、これらは和人の商船などによって京都をはじめとする各地へ運ばれ、当時の人々の食生活や文化を支える重要な役割を果たしました。
問8	答え 4 明から陶磁器や銅銭を得て、それを東南アジアの香料や香木とともに日本などの周辺諸国へ転売していた。	琉球王国は明との活発な朝貢貿易を通して、陶磁器や銅銭などを入手しました。同時に東南アジアからは香木や香料などを輸入し、これらを日本をはじめとする周辺諸国へ転売する中継貿易を行いました。
問9	答え 2 有力な守護大名の勢力を幕府の中枢に取り込み、将軍を補佐して幕政を安定させるため	室町幕府は有力な守護大名の連合体という側面が強く、特定の家系（三管領）が交代で管領を務めることで、幕府内での権力のバランスを保ちつつ、将軍の補佐を通じて全国の守護への統制を維持しようとしていました。これにより、初期の幕府運営の安定が図られました。
問10	答え 2 承久の乱	1221年に起こったこの乱により、朝廷側の勢力は完全に制圧されました。幕府はこれ以降、京都に六波羅探題を置いて朝廷を厳しく監視し、それまで支配が及びにくかった西日本への統制を強めることになりました。平治の乱はこれより以前の平安末期の出来事であり、平氏が政権を握るきっかけとなった争いです。
問11	答え 3 雪舟	雪舟は室町時代に活躍した禅僧で、幕府が派遣した勘合船で中国の明へ渡りました。彼は中国で本格的な水墨画の技法を習得し、帰国後は日本の自然に合わせた独自の構図を確立しました。代表作には「四季山水図巻」や「天橋立図」などがあります。
問12	答え 1 東アジアの海域で活動していた倭寇と、正規の貿易船を区別するため	当時、朝鮮半島や中国の沿岸部では、倭寇という海賊集団が激しい活動を行っており、明の政府は日本側にその取り締まりを強く求めています。これに対し、足利義満は明との正式な国交を樹立。明から与えられた「勘合」を所持する船だけを正規の貿易船として認める仕組みを作ること、倭寇による密貿易や略奪を排除し、国家間の安定した貿易を実現しようとしていました。
問13	答え 2 幕府が認めた正式な貿易船と、当時海上で活動していた海賊（倭寇）を区別するため	当時、東アジアの沿岸地域では倭寇と呼ばれる海賊の活動が激しく、明はこれに悩まされていました。そこで明からの要求もあり、義満は「勘合」という割り印のような札を持参した船だけを正式な貿易船として認める仕組みを導入しました。これにより、海賊船による密貿易を排除し、幕府が貿易の利益を独占することが可能になりました。